

2012年11月16日

「見えないガラス」が損保ジャパン東郷青児美術館で採用

～映り込みを抑えて、美術鑑賞の快適性を大きく向上～

日本電気硝子株式会社(本社:滋賀県大津市、社長:有岡雅行)が製造する、ガラスの光反射や映り込みを限りなく抑える「見えないガラス」が、損保ジャパン東郷青児美術館で採用されました。

美術品は、作品保存の観点から保護カバーの使用が望ましいとされています。一方で、それらのカバーは光を反射し、かつ映り込みを生じさせるなど、作品の鑑賞において妨げとなっています。

ガラスの両面に高性能な反射防止膜を多層成膜した「見えないガラス」は、ガラス表面の光の反射や映り込みを限りなく抑えるため、こうした問題を解消し、快適な鑑賞環境を提供できると高い評価をいただきました。

「見えないガラス」は絵画のみならず、さまざまな展示や表示において、その優れた性能から既に高級宝飾店のショーケース向けなどに採用が始まっているほか、現在スマートフォンやタブレットのタッチパネルの反射防止用途向けにも開発が進められています。

■ 「見えないガラス」の採用作品の展示

損保ジャパン東郷青児美術館所蔵作品展「絵画をめぐる7つの迷宮 ―終わりのない探求」

- ・ 会期:2012年11月17日(土)から12月24日(月・祝) *12月24日を除く月曜休館
- ・ 場所:損保ジャパン東郷青児美術館

東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル42F

- ・ 採用作品:『超現実派の散歩』(東郷青児、1929年作品)

■ 「見えないガラス」の特長

ヒトの目が感じる波長の光を選択的に反射しないように、反射防止膜の厚さをナノメートルレベルでコントロールしています。その視感反射率(*)の最小値は0.08%と、一般的なガラス(約4%)を大きく下回ります。美術作品の保護カバーとしては、これまで低反射処理を施したガラスやアクリル板が使用されることがありましたが、「見えないガラス」の性能は従来品を大きく凌いでいます。

(*) 視感反射率:ヒトの目が感じる反射率。

■ 「見えないガラス」と従来品の比較

「見えないガラス(左)」には反射や映り込みがありませんが、従来のアクリル板(右)には人の姿や照明が映り込んでいます。



■ 「見えないガラス」採用事例

- ・ 大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室 (絵画の保護カバー)
- ・ 奇美博物館 (絵画および彫刻の保護カバー)
- ・ GINZA TANAKA 銀座本店 (店舗ショーケース)
- ・ 宮本商行 銀座本店 (店舗ショーケース)
- ・ 平田晃久展「Tangling」(オブジェ用台座)
- ・ 秋田大学医学部 法医解剖室 (見学者用およびCTモニター用窓)

以 上

○リリース内容に関するお問い合わせ先

日本電気硝子株式会社 総務部 長谷川 電話:077-537-1861

○損保ジャパン東郷青児美術館所蔵作品展に関するお問合せ先

公益財団法人損保ジャパン美術財団 杉本 電話:03-3349-3081